

企画展 台湾と アイヌの工芸 —衣装・木工・装身具

民芸運動を提唱し、日本民藝館を創設した柳宗悦は、台湾の民芸と生活用具に大いに尊敬を払い、その力を摂取しなければならないと語っています。『民俗台湾』S18年1943)

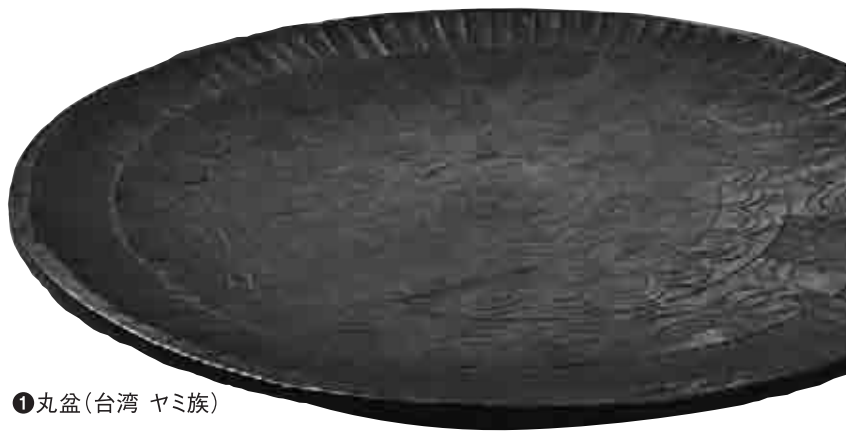
柳を師と仰ぐ丸山太郎は台湾を2回訪れており、初めて台湾を訪れた昭和51年(1976)の様子を『民藝』281号(S51年5月号)に掲載しています。表紙はカラーの「パイワン族衣装裂」で、目次には「ヤミ族魚盆」、グラフには「台湾原住民の工芸品」28点が載っています。台湾の伝統工芸の現況や生活用具への関心など太郎の興奮が伝わってくる台湾見聞記です。

また柳は、朝鮮半島、沖縄に続き、当時未開の民とみられていたアイヌの文化を讃え、彼らの手による工芸品の美しさを提唱しました。

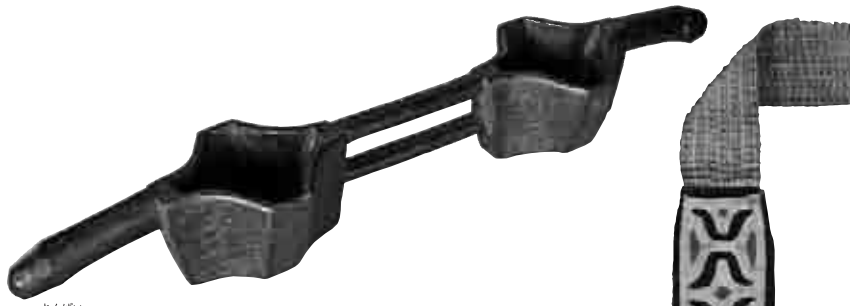
自然のなかで狩猟採集を中心とした生活を営んできたアイヌの人びとにとって、動植物をはじめ山や川、火、雷など自然そのものは神という存在でした。彼らは天地のあらゆるものに靈魂が宿っていると信じ、人間の作った器物もまた精霊をもつと考えました。

衣装や木工品などの生活用品にはそれぞれの民族独特の美しさ、力強さ、立派さ、神秘さが宿り、私達はその創造力の偉大さに心を動かされます。

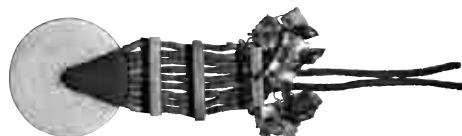
丸山太郎が選んだ、台湾とアイヌの民族の生活と祈りに満ちた品々の美しさと面白さをぜひご覧ください。



①丸盆(台湾 ヤミ族)



②連盃(台湾 パイワン族)



③背飾り(台湾)



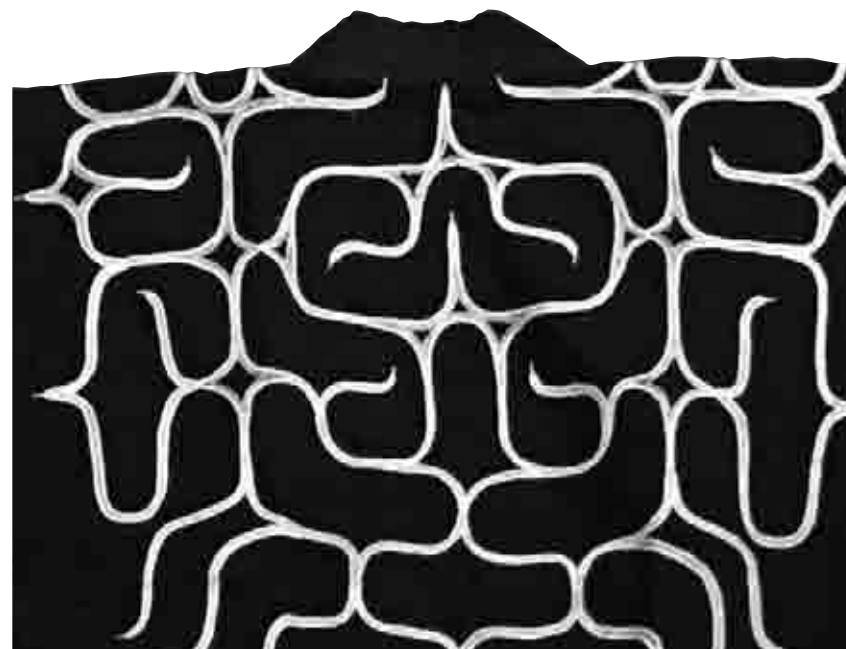
④杖入れ(アイヌ)



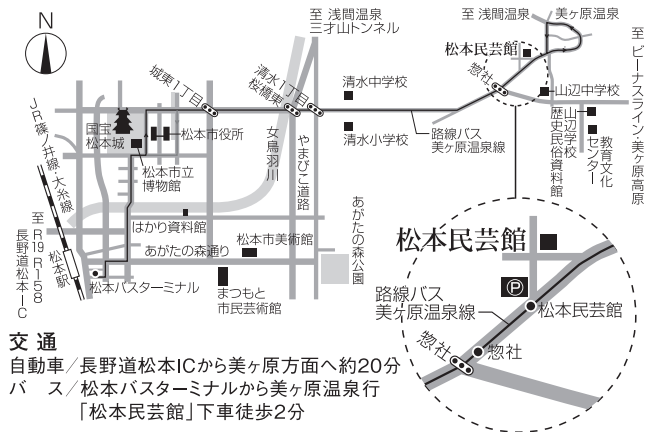
⑤刀纒(アイヌ)



⑥ひげべら(アイヌ)



⑦着物(アイヌ)



松本市立博物館分館

松本民芸館

松本市里山辺1313-1 TEL(0263)33-1569
URL <http://matsu-haku.com/mingei/>

